

ぶらネットこまき

<http://www.komakichiku.com/> (古牧地区住民自治協議会広報紙)



第124号

古牧だより通算218号

福祉特集号

第3次地域福祉 活動計画に寄せて



古牧地区住民自治協議会
会長 長田 元行

多くの皆様のご協力により古牧地区第3次地域福祉活動計画が策定され令和2年度からのスタートを機に

一言ご挨拶申し上げます。

平成22年度の第1次計画、平成27年度の第2次計画に基づき古牧地区ではふれあい支え合い・助け合いをスローガンに地域福祉の推進に取り組んでまいりました。

国の介護保険制度の改正を受けて、市内他地区に先駆け高齢者の介護予防への取り組みとして「ほんわか健康塾こまき」を立ち上げ現在に至っております。

一方、高齢化が急速に進み、これまで国を支えてきた団塊の世代が75歳を迎える2025年(令和7年)には介護・医療費などの社会保障費の急増が懸念されており、国では高齢者が人生の最後まで住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるための支援体制として、介

護・医療・住まい・生活支援・介護予防が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」を構築することをめざしています。これに対して古牧地区では高齢者が自立し、安心して暮らすためのサポート、生活環境の整備などを盛り込んだ「古牧地区支え合い活動」を令和元年に策定いたしました。

新たな第3次計画では支え合い・助け合いをベースに健康で長生きをするため、フレイル予防、健康づくり、交流の輪を広げる仲間づくりなどを折り込み、地域福祉の活動を5本の柱に体系化して取り組む計画です。活動推進にあたり体制の充実・強化も大きな課題ですが関係団体・機関と協力して推進されることを期待します。当計画の実行により支える人・支えられる人、誰もがみんな自分らしく生きいきと暮らしていけるまち、素晴らしい「古牧」となりますよう願っています。

今後、本計画に基づき、地域福祉の推進に努めてまいりますので、皆様のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

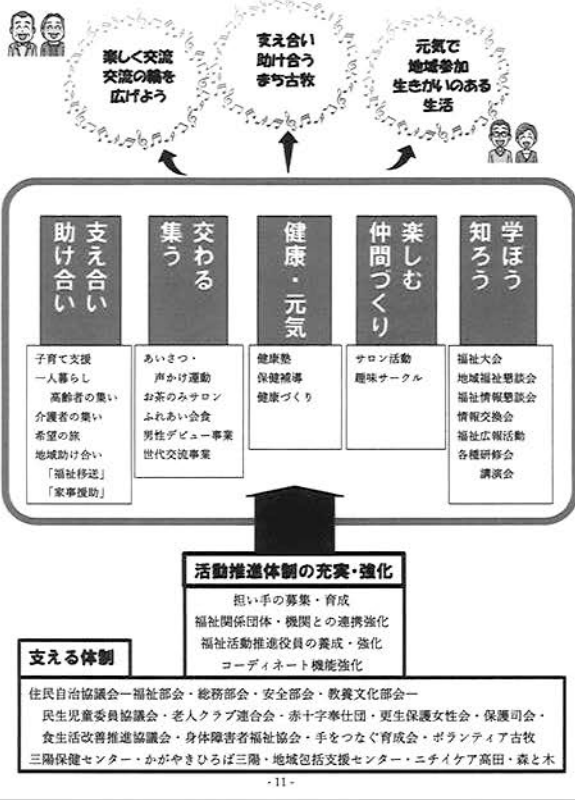
結びとなりますが、第3次の計画策定にあたりご尽力いただきました福祉部会、福祉推進員、関係団体・関係機関の皆様、そしてアンケートにご協力いただきました地域住民の皆様には深く感謝申し上げます。

第3次地域福祉活動計画の目標



自分らしく元気で希望を持ち、生きいきと暮らしていけるまち、支え合い・助け合い、交流の輪が広がり、笑顔が輝くまち“古牧”そんなまちづくりをめざします

第3次地域福祉活動計画の体系



福祉活動計画

支え合い・助け合い

子育て支援事業

子どもは地域の宝、これを合言葉に各区の公民館で「子育て広場」を開催します。

子どもたちの成長と子育て中の若いお母さん、お父さんの交流の場としてより充実した活動をめざします。

一人暮らし高齢者の集い

一人ひとりの思いに寄り添い、お互いの気持ちを共有する機会を持つことで生きる喜びを持ち充実した日々を過ごしていただける、そんな地域福祉をめざします。

介護者の集い

家族とともに我が家で暮らせることの素晴らしさ、幸せを実感していただくために日々の介護生活で奮闘・努力している介護者の皆さんの悩みに思いを馳せ、介護方法を学んだり、同じ環境の皆さんの共通の話題について情報交換する場をつくりまします。

希望の旅

障害者の皆さんを支えたい、そんな思いで実施してきた希望の旅。障害者の皆さんに楽しいひと時を過ごしていただき、この事業を通じて知り合い友達付き合いが始まり交流の輪が広がることを期待しています。

地域たすけあい事業－福祉移送事業

歩行困難な皆さんの通院の足としてすっきり定着した福祉自動車「あいりーん号」。

安全運転研修、みんなで学び、利用者の皆さんに喜んでいただけるよう取り組みます。

地域たすけあい事業－家事援助事業

一人暮らし高齢者など、日常の家事に困っている皆さんを支えたい、そんな思いでこれからも一層力を入れて取り組みます。

交わる・集う

あいさつ運動・声かけ運動

大人も子どもも、みんなであいさつ。

あいさつは「福祉」の原点、あいさつの飛び交うまちづくりにみんなで取り組みましょう。

お茶のみサロン

区民の皆さんの憩いの場として幅広い世代の皆さんが一堂に会し、お茶を飲みながら歓談したり合唱したり、クイズを楽しんだり、健康のことや福祉のことを学んだり多彩なメニューで交流を深め仲間づくりに取り組みます。

ふれあい会食

一人暮らしの高齢者の皆さんを対象に楽しく歓談しながら昼食をいただきます。

男性のデビュー事業

男性の皆さんの地域参加を期待し男性の料理教室に取り組んでいくこととします。その他、関係者と話し合い多くの男性の参加が期待できる活動の創出に取り組んでいく計画です。

世代交流事業

小中学生とその保護者、地域の高齢者の皆さんと、グラウンド・ゴルフやマレットゴルフなどのスポーツを通じて交流を図る事業にこれからも積極的に取り組みます。

ほんわか健康塾こまき

ほんわか健康塾こまきと銘打ち毎週金曜日、地域の高齢者の皆さんに参加いただき健康づくりのお手伝いに取り組みます。

それぞれの区健康塾

各区の公民館で介護予防を目的にストレッチ、筋トレ、脳トレなどを盛り込んだ「健康塾」に取り組みます。

保健補導「健康づくり」

運動や正しい食生活、医療や介護など多面的に私たち地域住民の健康づくりについて学び、知っていただく機会を提供します。

楽しむ・仲間づくり

サロン活動

アイデアをみんなで出し合って身近なところで活動。例えば、健康マージャン、健康吹矢いろいろ考えられますね。

趣味のサークル

高齢者の皆さんが参加できる趣味のサークル活動を創出、充実させ交流の輪を広げましょう。

学ぼう・知ろう

福祉大会など

古牧地区に支え合い・助け合いの精神が根付き、みんなが豊かな心で幸せに暮らせますよう福祉大会や地域福祉懇談会、各種研修会を開催し皆さんで情報共有し問題意識を持ち協力し合い地域福祉活動に取り組む土壌をつくります。

活動推進体制の充実

計画した地域福祉活動計画の実効性を担保するために極めて大きな課題は言うまでもなく、担い手・役員の確保であり推進体制の強化・充実が急務です。担い手、ボランティア要員の増強を可能にする人材発掘のシステムはいかにあるべきか、各種団体の皆さんと協議検討を進めるほか、地域福祉研修や講演会の開催を通して担い手、仲間づくりに取り組みます。

■福祉活動推進役員の活動力強化

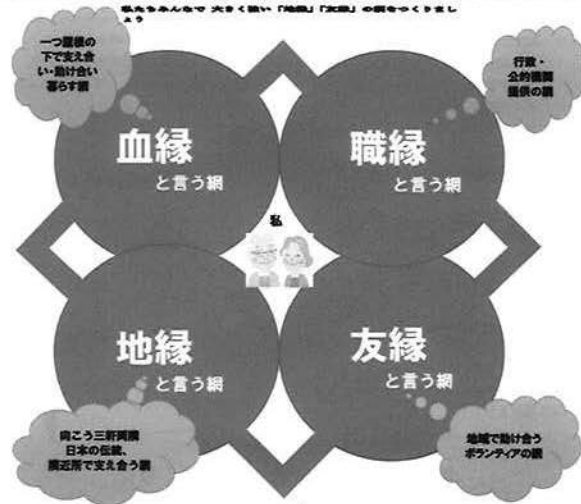
福祉活動の担い手である福祉推進員、保健補導員、子育て支援部員の皆さんが身近な地域で、地域の皆さんの期待に十分応えられるよう学びの場を設けてみんなで情報を共有

みんな幸せ 豊かな暮らしを

～支え合い 助け合う 古牧～
私たちはこのように学びました

●人間の一生はロープの上を歩いているようなものです
いろんな人がこのロープから落ちてくる⇒落ちて安全ように受け止められる網（セーフティネット）が必要なのです。この網は人がつながってできている網です。
この網を社会と言います。福祉とは幸せということ。
社会福祉とは、人を幸せにするための網です。
●落ちてきた人を支えられる網かどうかそれが問題なのです。

みんなで協力し合い安心して幸せに暮らせる「網」をつくりましょう



福祉情報広報活動

地域の皆さんに福祉活動の取り組みを知っていただくために、全世帯回覧や住民自治協議会の機関紙「ぷらネットこまき」やホームページを活用するなどして、情宣活動に力を注ぎます。

し、住民の皆さんに信頼される活動ができるよう取り組みます。

■福祉関係団体との協働体制の強化

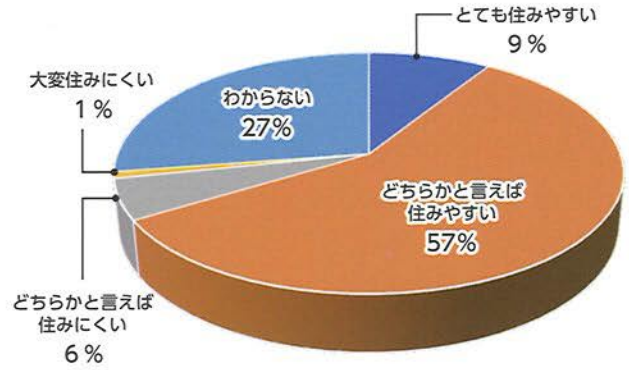
多様な地域の皆さんの期待、福祉ニーズに応えるため、住民自治協議会の各部会の役員との連携を図ることはもちろん、福祉関係団体の皆さんにも協力いただくことにより楽しく明るい活動をめざします

■各種団体や関係機関との連携・交流

多様な地域住民のニーズに応えるために、諸団体の皆さんや地域の専門家集団である公的機関の皆さんと日頃から連携し、一人ひとりの住民の皆さんにやさしい福祉サービスの提供に努めます。

各区の福祉推進員が中心となり令和元年9月、無作為に抽出した区内の皆さんにアンケートをお願いし集計した結果です。5年前（平成26年）と10年前（平成21年）に地域福祉活動計画を策定した時のアンケート結果と比較、分析しました。

高齢者や障害者、その家族の皆さんにとって古牧は住みやすい地域か、お聞きした結果は右グラフのとおりであり、住みにくいと回答した方が7%であり、10年前は12%、5年前が4%です。わからないと回答した方が27%あり気になるところです。



第3次地域福祉活動計画 明るい未来に向けて



古牧地区住民自治協議会
福祉部会長 宮澤 明彦

平成22年の古牧地区第1次地域福祉活動計画策定、更に平成27年4月の第2次活動計画に引き続きまして、いよいよ第3次の活動5ケ年計画が令和2年4月からスタートいたします。

令和元年6月、古牧地区住民自治協議会福祉部会では第3次古牧地区地域福祉活動計画策定プロジェクトチームを立ち上げ、長野市社会福祉協議会、長野市役所古牧支所からも積極的なアドバイスをいただきながら計画づくりに取り組んでまいりました。計画づくりには各区の区長はじめ古牧住民自治協議会の役員各位、各種団体長など地域福祉活動に係る大勢の皆さま方の熱意ある議論を経て、今般発行に至りましたこと大変うれしく改めまして深く感謝申し上げます。

さて、少子高齢化が急速に進む中、介護保険制度崩壊の危機が叫ばれるなど国の社会福祉課題は山積しており、地方行政から住民自治に寄せられている期待が年々大きくなっていることは周知のとおりです。私たち古牧地区では地域住民に寄り添う活動に取り組んで

きました。

地域福祉の重要性を認識して、いち早くほんわか健康塾を開設するなど積極的に諸々の地域福祉活動地域包括ケアシステムの構築が叫ばれている今日、従来にも増して地域福祉への取り組みの重要性が増している時代を迎えました。このような時代認識のもとで昨年、福祉部会では関係諸団体の協力をいただき、高齢者や支援の必要な地域住民に対する「古牧地区支え合い活動」を作成し全戸に配布させていただきました。

第3次の活動計画では「誰もが住みよい、明るく元気に暮らせるまちづくり」をめざし、5つの体系「支え合い・助け合い」「交わる・集う」「健康・元気」「楽しむ・仲間づくり」「学ぼう・知ろう」にまとめ、この5つの柱に基づき具体的な活動を計画しました。

皆さんが健康で生きいきと楽しく幸せに生活するためには安全で安心して暮らせるまちでなくてはなりません。まさに私たちの福祉活動はコミュニティづくりそのものであることから、地域のみんなが協力し「古牧に住んでいて良かった」と思えるまちづくりのために団体間の連携・協力を大切にして意思疎通を図りながら取り組んでいく所存です。

輝かしい、明るい古牧の未来に向かって充実した素晴らしい地域福祉活動が推進できますよう皆様方のご理解とご支援をお願い申し上げます。



古牧地区の世帯数と人口

令和2年3月1日現在

11,543 世帯

26,780 人

(男 13,219人 女 13,561人)

■発行所 古牧地区住民自治協議会
(電話259-8359・FAX219-1057)
(E-mail: komaki@vivid.ocn.ne.jp)

■発行者 長田 元行

■編集 ぷらネットこまき編集委員会

■印刷 (有)小池印刷